NGO・NPOの環境保全活動を支援します

— 環境再生保全機構 —

地球環境基金便り

No.57 2025

いつもの行動を みんなでチェンジ!

目次

02 | 特集：いつもの行動チェンジ！
・助成先団体紹介
・シェアリングエコノミー協会 石山アンジュさん
09 | 助成期間終了後の団体さんに訊く
10 | みんなの環境活動
12 | 環境トピックス：自然共生サイト
13 | 環境カレンダー2025
14 | We are 環境Player!
15 | 全国ユース環境活動
17 | サポーターインタビュー
スペシャルインタビュー | 小山慶一郎さん

地球環境基金

NGO・NPOの環境保全活動を支援します

地球環境基金便り

No.57 | 2025

Special Interview

小山 慶一郎

KOYAMA KEIICHIRO

僕は、信じてる。
一人ひとりが
積み重ねる力を。

地球環境基金とは

環境再生保全機構は、国の出資金と民間からの寄付金により「地球環境基金」を設け、その運用益と国からの運営費交付金により、国内外の民間団体（NGO・NPO）が行う環境保全活動へ支援を行っています。

国 → 運営費交付金 / 出資
国民・企業など → 寄付
→ 独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金 約142億円
→ 運用益
→ 助成事業
- 国内民間団体による開発途上地域の環境保全のための活動
- 海外民間団体による開発途上地域の環境保全のための活動
- 国内民間団体による国内の環境保全のための活動

→ 振興事業
- 民間の環境保全活動の振興に必要な調査研究、情報の提供、研修

\ follow us! /

X @ERCA_kikin

Instagram @erca_kikin

Facebook 地球環境基金

独立行政法人 環境再生保全機構

発行／地球環境基金部基金管理課　編集協力／株式会社文化工房

URL：https://www.erca.go.jp/jfge/
E-mail：c-kikin@erca.go.jp
〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310番 ミューザ川崎セントラルタワー8F
TEL：044-520-9606　FAX：044-520-2192

リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
VEGETABLE OIL INK

特集テーマ
いつもの行動をみんなでチェンジ！

さぁ今日から、自分たちから。

こんな環境アクションをあたりまえにしよう！

2015年「パリ協定」や「持続可能な開発のための2030アジェンダ（SDGs）」の採択が大きな転換点となり、社会は大きく変化していますが、それを支えているのは私たち一人ひとりの行動です。
改めて、目の前にある暮らしの環境アクションを、見直してみませんか？

お話を伺ったのはこの方

石山アンジュさん

一般社団法人シェアリングエコノミー協会代表理事、デジタル庁シェアリングエコノミー伝道師、コメンテーター。1989年生まれ。「シェア」を通じた新しいライフスタイルを提案し続け、「シェアエコグリーンフライデー」など、これからの消費を考えるきっかけづくりを幅広く発信。政府の委員なども務める。

行動を変えるには、思考のチェンジも大切です。社会全体がコモン（共有財）である、すべては地球の財産であるという意識が、持続可能な社会や環境保全につながります。

＼エコな／ライフスタイルへシフト

エコツーリズム
責任ある観光で地域を楽しむ

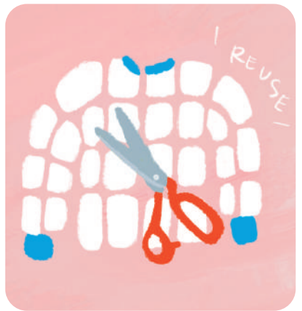
旅をしながら地域の環境や文化に触れるエコツーリズム。その土地の自然や文化に敬意を持った、責任ある観光・地域思いの観光が、環境や豊かな文化の保全につながります。

フードロス
食べ残さない＆持ち帰る

日本のフードロスは年間約472万トン※。家庭では作り過ぎない、外食では持ち帰るなど、ムダなく食べきることが大切。運搬や廃棄にかかるCO_2排出量も減らせます。

※農林水産省及び環境省「令和4年度推計」。
フードロスとは、食べられるのに廃棄される食品。

ファッション
リユースやシェアで服を循環させる



流行サイクルが早く、製造から廃棄まで多くの資源・エネルギーを使うファッション産業。リサイクルやリユース、シェアサービスなどで上手に使い回せば廃棄も減らせます。

プラスチックごみ
日々の買い物の視点をチェンジ

プラスチックは分解されにくく、海洋に蓄積されるなど生態系への影響が深刻です。プラ包装なしの商品を選ぶ、エコバッグを使うなど、みんなで毎日小さな減プラを。

資源循環・半農
コンポストで生ごみも活用

家庭の生ごみを微生物の働きを利用して堆肥にするコンポスト。ごみの焼却が減り、資源として再利用できます。堆肥づくりをきっかけに家庭菜園で小さな自給自足を。

ライドシェア
自転車や車をシェアする

個人で所有せず、短時間のレンタルサービスを活用するシェアサイクルやカーシェア。頻繁に使わないものはシェアする意識が、大量生産・大量消費にブレーキをかけます。

2030年「SDGs 17のゴール」、2050年「カーボンニュートラル」実現など、持続可能な社会に向けた目標年が、近づいてきました。私たちが暮らしの中で環境のためにできる選択肢も増えています。シェアリングエコノミー協会代表理事の石山アンジュさんに、今日から始められる環境アクションについてお話を伺いました。

所有から、シェアへ身近な行動をチェンジ

私は現在、東京でシェアハウスに暮らしながら、全国各地で多拠点ライフをおくっています。シェアハウスでは、都心でも手軽なバッグタイプのコンポストを活用中です。最近はシェア畑などもありますし、多くの人が半自給自足のライフスタイルにシフトすると、フードロスへの意識が高まるうえ、モノの運搬によるCO_2排出量も減らせます。

また、日常的にタンブラーを持ち歩いたり、食品用ラップは再利用できるシリコンシートを使ったりもしています。

ファッションでも、土に還るサステナブルな素材を使った服やエシカルジュエリーを選ぶようにしています。ただ、どうしてもまだ割高です。手軽なのは、ファッションのシェアサービス。特に出番が少ない冠婚葬祭用の服やバッグなどは個人で所有せず、シェアリングがおすすめです。ひと月に1～3着を選べるサブスクリプションタイプのシェアサービスもあり、男性向け、スーツ専門など細部化も進んでいます。成長の早い子供服やアイテムは、ネットフリーマーケットでのリユースも便利です。

旅に関しては、旅先で仕事をするワーケーションや、使わなくなった古民家などをリノベーションして宿泊施設にする民泊など、旅をしながら暮らすような仕組みも増えています。遊休施設をカフェ、オフィス、民泊などに、空間をシェアしながら活用する取り組みは、多くの地域が抱える空き家問題の解決にもつながります。

私たちが提唱している「シェアリングエコノミー」は、このように「モノ」に限らず、空間・車・自転車などの「移動」、隙間時間のアルバイトや家事・育児・介護の代行といった「スキル」も含みます。クラウドファンディングなども、いわば「お金」のシェアです。地球環境のためにも、こうした「シェア」の思想をベースにした、持続可能な共生社会システムが求められています。

「シェアリングエコノミー」について、石山さんのお話は8ページへ続きます。

特集テーマ
いつもの行動チェンジ！
～助成先団体紹介～

環境 × 旅行

#01 Tourism

特定非営利活動法人 C・C・C富良野自然塾

活動名：脱炭素社会に向けた観光地の取り組み「ゼロカーボン・トラベラー」推進事業

活動地域：北海道富良野市

活動開始：2005年

作家・倉本聰氏が主宰する「地球の道」や「植樹」を通じて環境問題を体で感じる自然塾

岸上夏樹さん

旅行を通じて環境を考える「ゼロカーボン・トラベラー」を推進しているのが、北海道富良野市で活動するNPO法人C・C・C富良野自然塾です。旅によって発生するCO_2を数字で可視化。旅行者が旅先で植樹し、将来のCO_2吸収へつなげるという取り組みです。塾長は、長年、富良野からさまざまな発信を続けている作家・倉本聰さん。倉本さんのもとで活動を続けて7年という若きリーダー、岸上さんにお話を伺いました。

合言葉は「富良野に来たら木を植えよう！」

旅で排出したCO₂を植樹で回収する「ゼロカーボン・トラベラー」

そもそものきっかけは、約20年前に井戸水が枯れたことでした。地元富良野の環境危機を、身をもって感じた塾長の倉本聰が、閉鎖されたゴルフ場の活用相談を受けて「元の森に還そう」と、自然還元事業&環境教育事業のプログラムを考えました。2005年から活動を始め、環境教育の面においては、地元の小学校のカリキュラムに組み込まれたほか、自然塾のプログラムを行う分校が東京・京都・神奈川をはじめ全国各地にできるなど、活動が広がっています。

現在、地球環境基金の助成を受けている「ゼロカーボン・トラベラー」の活動は、その思いとアクションに、旅行者を巻き込んでいこうというものです。富良野市は市民2万人に対し、年間観光客200万人という観光の町。市民と旅行者が協働で環境アクションすることで、さらに大きな動きにつなげていけると思っています。

助成1年目の2023年は、市民・旅行者合わせて累計168人が参加し363本が植樹されました。また、行政・環境事業者との連携体制も整いつつあり、富良野市ワーケーション展開費用助成金の申請条件に「富良野自然塾のゼロカーボン・トラベラー事業への参加」が加えられました。

ただ植樹するのではなく自分で体感することが大事

植樹では、北海道の在来種であるアカエゾマツ、ハルニレ、ミズナラの苗木を3種類1セットで寄せ植えにします。これは今後環境が変化するなかで、どの樹種が生き残るかわからないからです。苗は約3年かけて種から育てています。苗木や若木をウサギや鹿などから守らなければいけませんし、植樹から15年ほど経った頃には間伐も必要です。人が森をつくるというのは、本当に手間と時間がかかります。

ただ、植樹はあくまでもきっかけです。環境危機を体で感じるためのシナリオの一部であり、地球環境が今どれほど急激に変化しているのか、それを食い止めるために「自分たちが何をしていきたいのか」を考えることが重要です。

元ゴルフ場のフェアウェイに紙製の鉢「カミネッコン」で植樹する。植樹者には「ゼロカーボン・トラベラー認定書」を発行。「植樹後にも、遠くから樹を見守り続けてもらえるよう。認定書の情報は特設WEBサイトでチェックできます」と岸上さん。

「私たちが呼吸で吸っている空気のある層は、この直径 1mの地球でいうと厚さはどれくらいになると思いますか？」と岸上さん。問答することで地球環境を再認識します。「答えは、ぜひ各地の自然塾で！」

富良野自然塾のフィールド内には、46億年の地球の歴史を辿る「地球の道」があります。隕石がぶつかり、海ができ、酸素が発生して、地球が凍り、最終的に人類が誕生する。この星が辿った膨大な時間と数々の奇跡の末にある今。私たちがどのように暮らしているのかを考える460mの道です。私たちがストーリーテラーとなり一緒に歩くことで、この壮大な地球のドラマを参加者と共有し「自分が何をすべきか、していきたいか」を感じ、植樹をしてもらいます。この倉本が書いたシナリオは、何年経っても廃れることなく参加者に語りかけています。

旅行者の環境負荷を見える化する「CO₂排出量測定ツール」

旅行者に旅の環境負荷を「自分ごと」としてもらうために、特設WEBサイトで誰でも無料で利用できる「CO_2排出量測定ツール」を作りました。旅程を入力すると、その旅のCO_2排出量がわかるというものです。例えば、東京から2泊3日で富良野旅行をした場合、約18kgのCO_2を排出する計算となり、これは樹齢50年のトドマツ1本が1年間に吸収するCO_2量に相当します。助成初年度は260人の旅行者がツールを利用しましたが、年間800人の利用が目標です。最終的には、全国の自治体でも使える汎用性のあるツールにバージョンアップする予定です。手始めに今秋、サイトをリニューアルしました。もっと多くの旅行者にこの活動やサイトを知ってもらえるよう、地域とも協働し、しっかり発信していきたいです。

将来的には「〇〇に来たら木を植えよう」が全国の観光地で展開され、「ゼロカーボン・トラベラー」という旅のスタイルが根付いてほしいと願っています。

2024年秋にリニューアルされた特設WEBサイト。
https://zerocarbontraveler.com

特集テーマ
いつもの行動チェンジ！
～助成先団体紹介～

環境 × 農業

#02 Farm&Food

任意団体 日本自然農業協会

活動名：ベトナム国における小規模農家を対象とした自然農業（土着微生物と地域資源を活用した環境保全型農畜産業）の普及啓発教育活動とモデル農場の整備

活動地域：福岡県、熊本県など／韓国、台湾、ベトナムなど

活動開始：1993年

30年以上前から環境に優しい「自然農業」を推進

澤村輝彦さん　塩川 実さん

土着微生物を活かして、持続可能な農業を！

化学肥料や農薬の使用を減らし、環境負荷の少ない持続可能な農業を進める活動を、世界へ広げているのが「日本自然農業協会」です。

ベトナムの山岳部に持続可能な自然農業を

ベトナムは、コーヒー、こしょう、カシューナッツなども世界第2位の生産量を誇る農業国。お米の輸出国でもあります。ソンラー省バンホー県は、ラオス国境沿いにある少数民族が多く暮らす地域で、山岳部のため平地の耕作面積が小さく、多くが家族単位で営農する小規模農家です。同様の地理条件にある隣県では、キャッシュクロップ（商品作物）として飼料用とうもろこしを生産するようになり、除草剤・化学肥料・農薬散布をする、生態系を無視した画一的農業への依存が進んでいます。

これに危機感を抱いた現地の有機農業団体から要請を受け、私たちの活動が始まりました。

モデル農場では、収穫と収入が安定。人件費を賄えるまでになり、活動を継続する基盤が整ってきました。

現地メンバーが中心になり自律的な活動が進んでいます

大切にしているのは、それぞれの土地の土着微生物や植物発酵液肥料で行う自然農業です。前回の地球環境基金の助成期間（2021-23）を通じて、有効な微生物や肥料の検証とモデル農場を立ち上げワークショップを開催。普及のための現地組織の土台づくりを行ったことで、自然農業の認知は増えています。

それに続く現在は、現地の大学との協力体制ができ、農家と学生を対象とした研修プログラムが始まっています。実践的な議論が深まるとともに、20～30代の若い世代における環境意識も高まってきました。また、農業を経験したことがない子どもが増えていることから、幼稚園での「親子農業体験ワークショップ」も新たにスタートしています。

心強いのは、熱意のあるベトナム人メンバーがいること。彼らが中心となり事務局の組織化が進行中です。自律的な活動が軌道に乗る道筋が見えてきています。

5日間の「研修プログラム」では大学生と農家がともに学びます。

環境 × 資源

#03 Trash

任意団体 大阪ごみ減量推進会議

活動名：2025年大阪・関西万博でゼロ・ウェイストを実現するための「ごみウォッチング」と廃棄物対策の検証評価

活動地域：大阪府大阪市

活動開始：2011年

市民・事業者・行政と連携して「ごみゼロ大阪」を目指す

花田眞理子さん

「大阪・関西万博」を通じてごみ問題を一緒に考えませんか？

「2025年大阪・関西万博」を通じて、未来社会につながる、ごみ問題への考え方を広げようとしているのが「大阪ごみ減量推進会議」です。

そもそもごみを出さない！それが「ゼロ・ウェイスト」

「ゼロ・ウェイスト」という言葉を聞いたことはありますか？「無駄・浪費・ごみ」をなくすという意味で、廃棄物をどう処理するかではなく、そもそもごみを出さないようにしようという考え方です。

私たちの地元である大阪で、2025年4月13日から10月13日まで、184日間2025年日本国際博覧会（略称、「大阪・関西万博」）が開催されます。会場運営に伴って発生する廃棄物量の推計は、アルミ缶、スチール缶、びん、業務用缶、ペットボトル、プラスチック類、段ボール、紙類、生ごみ、廃食用油を合わせて計5314.29トン。これらについては100％リサイクルを目指すとしていますが、可燃物・不燃物を合わせた計4394.22トンについては、焼却または埋め立てされることになり、リサイクル率は55％にとどまっています。これではとてもゼロ・ウェイストに近づいているとは言えません。しかも、この数字には建設・解体工事に伴って発生する廃棄物も含まれていません……。

万博期間中も終了後もできることをやっていく

私たちは万博期間中に「ごみウォッチング」を予定しています。会場でのごみの組成調査の結果、混入の多かった異物が、どのような理由でどのような人たちによってもたらされるのかを解明し、博覧会協会への改善提案につなげる予定です。また、万博終了後に、きちんと評価・総括できるように必要な情報を収集していきます。そのための、あらゆる情報の公開を博覧会協会に要請していきます。

ごみ問題で最も大切なのは、最初からごみになるようなものを発生させない社会の仕組みづくりです。ごみにしかならないものは最初から原料として使わない、複合素材は使用しない、できるだけ余分な包装はしない。これらを製造・販売の段階で徹底することが必要です。万博という国際的イベントを通じて、この「ゼロ・ウェイスト」の考えを広く伝えていきたいと思います。

万博に先んじて、天王寺区民祭りにて、堆肥化・炭化可能な食器「エディッシュ」の使用実験を行いました。

「イベントでのごみゼロ」について意見を交わす、ごみ減量連続セミナー。

特集テーマ

いつもの行動チェンジ！

～石山さんに聞きました～ さらに

大量生産・大量消費せず いいものをみんなで使う

昔から私たちの暮らしにあった、醤油の貸し借りやお裾分けのような「シェア」が、今はご近所だけでなく、インターネットを通じて、広く可能になりました。誰がどんなお醤油を持っていて、どのくらい貸せるかが瞬時にわかり、個人と個人が直接つながりシェアできるのです。

２０２４年12月時点で、シェアリングエコノミー協会加盟社数は４００社を超えており、私たちの暮らしのあらゆる場面でシェアサービスが利用できるようになっています。市場の広がりとともに、サービスの細分化も進みつつあります。国内のシェアリングエコノミー市場規模は２０３２年度には15兆１１６５億円※に達することが予想されていて、「シェア」という考え方は、循環型の持続可能な共生社会の大切なキーワードと言えるでしょう。

かつては「大量生産・大量消費」が経済の原動力であり、一人ひとりが「所有」することに価値があり、マイホームやマイカーを持つことがステイタスでした。シェアリングエコノミーの思想では、モノは所有せず必要な時に借りて使います。

このシェアの考え方は、決して「ものづくり」と対立するものではありません。シェアによって、さまざまな商品やサービスとのタッチポイントが生まれ、その人が本当に価値を感じる「大事にしたいもの」に出会う機会にもなるのです。ちなみに、ものづくりの現場でも、稼働しない期間に生産ラインを貸し出すといったシェアリングファクトリーも進んでいます。

資源を浪費せずに「シェア」することで持続可能な循環型社会を作っていけます

信頼とつながりがシェアリングエコノミーの土台

全国各地を巡り多くの方と対話する中で感じるのは、シェアに対する「地域格差」や「デジタル格差」「世代格差」です。例えば、地方よりも利用者の多い都市部のほうがシェアサービスも充実しています。ただ、ネットを介したサービスが多いため、デジタルが苦手な方にとってはハードルが高く感じられることもあるようです。どこでも誰でも利用できるように、公民連携したモデルづくりが必要です。興味深いのは、世代による意識の違いです。一概には言えませんが、若い世代や、戦後のモノが少ない時代を経験している75歳以上の方は、シェアにあまり抵抗がありません。一方、50～70代前半のバブル時代に成人期を過ごした世代は逆で、所有することにステイタスを感じる方が多いようです。

シェアの根底には「共有」や「共助」があります。当然ながら新品や完璧なサービスが提供されるわけではありません。サステナブルな取引のためにも、お互いを理解する力、許容し合う力、人どうしの信頼とつながりが大切です。

一般社団法人シェアリングエコノミー協会が毎年11月末に実施する「シェアエコグリーンフライデー」では、シェアサービス複数社がロゴの色をグリーンにチェンジするなど、「シェアでサステナブルな消費の選択肢」を業界協働で推進しています。

※シェアリングエコノミー協会・株式会社情報通信総合研究所との2022年共同調査より

行動チェンジを後押し！ ～地球環境基金助成先団体～

団体名：特定非営利活動法人 **Mブリッジ**
活動地域：三重県
活動名：エシカル推進で育むサスティナブルな消費行動の啓発活動

団体名：一般社団法人 **暮らしのデザイン室**
活動地域：北海道
活動名：チャリティショップの普及によりチャリティ文化の機運を高めながらゴミ削減に貢献する活動

団体名：特定非営利活動法人 **森ノオト**
活動地域：神奈川県
活動名：布と手芸用品のリユースステーション【「めぐる布市」出口を広げるプロジェクト】

希少な生物群が息づく重要湿地「中津干潟」

～助成期間終了後の団体さんに訊く～

その後、活動はどうですか？

助成期間中の基礎調査や地域関係者との連携がベッコウトンボの「市の天然記念物」指定、「自然共生サイト」認定へと、結実しています！

特定非営利活動法人「水辺に遊ぶ会」

活動地：大分県中津市

活動対象期間：2021～2023年

助成活動：「中津干潟が公的保全の枠組みに指定されることを目指すプロジェクト」

地球環境基金の助成を受けたきっかけは？

きっかけは、団体内の世代交代でした。活動の強力な牽引者だった初代理事長から受け継いだ「いきもの元気・子ども元気・漁師さんも元気な中津干潟」を１００年後にも残すためには、関係者全員が納得できるしっかりとしたビジョンが必要でした。

そこで、私たちは「中津干潟（なかつひがた）」や「野依新池（のよりしんいけ）」を公的保全の枠組みへ登録することを目標に掲げました。登録には生物群の種の同定といった基礎的調査や、地域住民の深い理解も求められます。時間も資金も不可欠であることから、3年間継続的に支援してもらえる地球環境基金の助成金を活用しました。

地球環境基金助成金を活用して、よかった点は？

まず、助成金申請を通じて、これまでの活動の見直し・棚卸しをできたことが大きかったです。それにより公的保全への登録という、明確な中間目標を定めることができました。助成期間中は、登録に向けた「基礎調査と分析」と、広報イベントやキャンペーンなどを通じた「関係者づくり」に注力。3年間で3冊製作した「調査レポート」のおかげで、行政担当者や研究者をはじめ、広く環境保全の関係者たちと、科学的な裏付けをもって対話できるようになったことは、大きな財産です。

これらを実現するためには資金力が不可欠で、地球環境基金の助成金は有用なものだと感じています。

現在の活動状況は？

活動が25年を迎えた２０２４年、ベッコウトンボが中津市「天然記念物」に、尾無（おなし）の湿地が環境省「自然共生サイト（12ページを参照）」に認定されました。「ラムサール条約」についても県や市の議会で話題に上がり、登録が現実味を帯びて動き出しています。3年間の助成期間での活動が、着実に実を結んでいます。

公的保全への指定・登録を後押しした「調査レポート」

環境 × 文化

テーマも取り組みも十人十色！

みんなの環境活動

助成団体の活動の中から注目のテーマや取り組みをクローズアップしてご紹介します

財団が管理する「旧与那国家住宅」地面をきれいに保つのはマラリアを防ぐ古からの知恵

「御嶽（うたき）」の森をきっかけに2次的自然を守り、未来へつなぐ

人の営みとともに育まれる「2次的自然」の重要性

沖縄県八重山諸島にある竹富島は、国の重要伝統的建造物群保存地区でもある昔ながらの赤瓦と白い道の町並みや、乗り合い水牛車などで知られる、小さな島です。人口約320人の島には年間約40万人の観光客が訪れます。オーバーツーリズムの問題もありますが、その傍らで、生物多様性の保全再生、自然資産を守ることも急務となっています。

島の産業は観光業が中心となり、生業としての農業が消滅。多くの里山と同じく、竹富島でもこれまで人の手が加わることで豊かな生物多様性を育んできましたが、いまやその「2次的自然」が失われつつあります。島の住民が「2次的自然」の重要性を認識できる機会が少ないことも、大きな課題です。

そこで、私たちは住民の暮らしに密接した聖域祭祀にまつわる「御嶽（うたき）」の森に焦点を当て、活動を始めました。御嶽は非常に神聖な存在であり、一般の人の立ち入りを禁止しているだけでなく、祭祀以外では島民も立ち入りません。島内にある28の御嶽の維持管理は、それぞれの集落の決まった家が代々行っています。しかし、住民の3分の1が70歳以上となり、過疎化、少子化も進み、その手入れが継承されていません。御嶽はこれまで、文化財や民俗学的な調査はされてきましたが、御嶽の森の植生調査や生物多様性については行われてきませんでした。

「静謐（せいひつ）」と「鬱蒼（うっそう）」では大違い 御嶽の森は手入れ次第

活動のきっかけは、とある御嶽の森に驚いたことでした。以前より御嶽のひとつの管理を任され、自分なりに手入れを続けていましたが、島のおじいが手入れするその御嶽は、空気が全く違ったのです。閑静で静謐な暗がりと、清らかな風通し……これが本当の御嶽だと思いました。その姿をほかの御嶽にも取り戻したいのですが、どれが有用樹なのか、枝一本切るのも大変難しく、どう手入れすべきかわからなかったのです。

御嶽にまつわる伝承が基本的に口伝（くでん）であること、昔から隣の集落の御嶽に出入りしないこと。さらに、島に高校がないため15歳になると島を出てしまうことなどから高齢化が進み、多くの御嶽で伝承が途切れてしまいつつありました。

そこで、私たちは、おじい・おばあたちからの聞きとりや過去の文献研究を行い、同時に、学術的な実地調査を始めました。大学の教授らと、御嶽の森にある直径15㎝以上の220本の樹を調査。島の固有種の見極めや絶滅危惧の樹種の確認などを進めています。また、御嶽の森など聖域祭祀にまつわる2次的自然の保全管理は、島の在来の生物多様性の保全にも貢献することから、環境省「自然共生サイト」の認定申請準備も進行中です。

昔ながらの「農」のある暮らしを取り戻したい

御嶽では今も年間17もの祭祀が執り行われています。国の重要無形文化財の「種子取祭」をはじめ、すべてが「農」に関わる祭祀です。それなのに島内の農地は活用されず作物を育てる人もいないため、いまや祭祀に使う穀物でさえ近隣の島から取り寄せています。古来の風習・文化・景観が息づいていることが島の魅力でありながら、その土台である、人の営みが失われているのです。

私たちの目標は、御嶽の森の周辺に島の伝統作物である粟、麦、タカキビなどの畑が広がることです。昔ながらの農のある暮らしが戻ることで、島の生物多様性も守れます。100年後も竹富島が今のままであるために、島民の心のよりどころである「御嶽」を起点に、自然資産を守り、次の世代へつなげたい。伝承と検証を大切に、活動を続けていきます。

御嶽は島民にとってとても神聖な場所

竹富島は珊瑚礁が隆起した島 珊瑚の砂の浜は白くて美しい

かつては家の基礎にも珊瑚を活用

手入れの伝承が途絶えた御嶽の森ではツルが樹を絞め殺してしまう

300円の入島料は貴重な活動資金！

石垣島と竹富島のフェリーターミナルに券売機を設置。「入島料の認知が広がらないのが課題」と水野さん。“うつぐみ”とは協力の意味です。

「地域自然資産法」って知ってる？

地域自然資産法とは

自然環境保全地域への入域料やトラスト活動（地域住民が土地を買い取るなど）に関する法律で、2014年に制定されました。都道府県や市町村が中心となり、多様な関係者と協議し、自然環境の保全および持続可能な利用の推進に関する「地域計画」を作成し、入域料や寄付金の取得を行える法律です。

今回お話を伺ったのはこの団体

一般財団法人 竹富島地域自然資産財団

活動名　竹富島の聖域祭祀にまつわる「御嶽」などの2次的自然の保全活動

昭和30年代から続く「小さな島の大地を生かしたい」という島民の思いを礎に、島の暮らしと観光の共存、自然環境保全に取り組んでいます。

団体の設立年	2019年
本活動の開始年	2024年
地球環境基金の助成年数	1年目

環境カレンダー2025

環境省が主催・共催・後援、出展する、環境に関するさまざまなイベントや行事をご紹介します。
これからの環境アクションや活動計画のきっかけに！

February

「第 10 回全国ユース環境活動発表大会 全国大会」 2/1･2
国連大学ウ･タント国際会議場にて開催

「エコツーリズム大賞　表彰式」

「気候変動・脱炭素都市ウィーク」

April

「大阪・関西万博（2025 年日本国際博覧会）」開幕 4/13-10/13
「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、脱炭素、資源循環、海洋プラスチックごみ対策など、地球環境保全に関するさまざまな発信も!

アースデイ
1970年に始まった国際的な環境キャンペーンです

みどりの月間 4/15-5/14
毎年、5/4「みどりの日」を挟んだ1か月。環境保護、生物多様性の大切さに改めて目を向けませんか?

May

「NEW 環境展 2025」「地球温暖化防止展 2025」 5/28-30
東京ビッグサイトで開催される、アジア最大級の環境展です

「海ごみゼロウィーク」
海洋ごみを減らすための清掃活動の強化期間。合言葉は「海ごみゼロ」!

June

環境の日&環境月間 6/5
6/5は「環境基本法」で定められた「環境の日」。日本の提案を受け、国連もこの日を「世界環境デー」に定めています。6月を「環境月間」とし、環境保全の重要性を認識し、行動のきっかけとするためのさまざまなイベントが開催されます

August

「環境省こども霞が関見学デー」 2024年度 ERCAブース出展!

September

動物愛護週間 9/20-26
動物の愛護と適正な飼養をみんなで考えます

October

食品ロス削減の日&食品ロス削減月間 10/30
10/30は「食品ロス削減の日」。10月は「食品ロス削減月間」です

November

「第 11 回全国ユース環境活動発表大会」応募受付開始

2026 年度地球環境基金助成金　要望書受付期間

「GTF グリーンチャレンジデー」 2024年度 ERCAブース出展!
地球に優しい行動「グリーンチャレンジ」を応援するイベントです

December

「エコプロ」 2024年度 ERCAブース出展!
東京ビッグサイトで開催される、国内最大規模の環境イベント!　多種多様なエコアイデアやヒントが一堂に

「環境省グッドライフアワード」
環境と社会を良くする取り組みを応援･表彰するプロジェクトです

これからの環境目標もチェック!

環境省のさまざまな取り組みの源でもある「環境基本計画（第6次/2024年5月）」から、
3つの分野の重点的施策の展開や目標をチェック。みんなで社会を変えていく指針です。

気候変動対策　分野
「2050年カーボンニュートラル」「2030年度46%削減（温室効果ガス排出量を2019年の水準から）」などが目標として掲げられています。

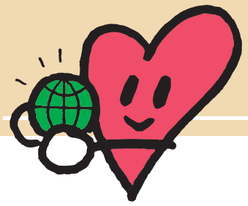
循環型社会の形成　分野
循環経済への移行を進め、「ネット･ゼロ」「ネイチャーポジティブ」「地方創生･地域活性化」を実現する「循環型社会の形成」を目指します。2030年までに、循環経済関連ビジネスの市場規模80兆円以上という目標も。

生物多様性の確保･自然共生　分野
2030年までに、自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め回復させる「ネイチャーポジティブ：自然再興」を実現し、2050年ビジョンである「自然共生社会の実現」につなげるのが目標です。

参考：環境省HP

Do you know this keyword?

環境
トピックス



自然共生サイト

「自然共生サイト」とは企業や自治体、NPO 法人などの民間の取組によって生物多様性が保たれている区域を認定する制度です。

2022 年「生物多様性条約第 15 回締約国会議」において、2030年までの新たな世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されました。
この世界目標を踏まえて、日本では、生物多様性の損失を止め、反転させる「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の実現を目指し、「2030 年までに、陸と海の 30% 以上を健全な生態系として効果的に保全」することを掲げています。

30 年までに 30%=「30by30/ サーティ バイ サーティ」を合言葉に官民一体となって日本の豊かな陸と海を維持するため、企業や市町村などが管理する、森や里山、河川、海、都市を「自然共生サイト」に認定。国際OECMデータベースへと登録しています。2024年12月現在、全国 253か所が認定されています。

2025 年から、ERCA が ネイチャーポジティブを推進します！

2024 年 4 月に「地域における生物の多様性増進のための活動の促進等に関する法律」が制定され、2025 年度より、環境再生保全機構（ERCA / エルカ）は、ネイチャーポジティブ推進業務として、地域における生物多様性の増進のための活動計画を認定する事務の一部を担うことになりました。

どんな地域が認定されているか こちらでチェックできます！ あなたの活動も認定を受けられるかも？

環境省HP「自然共生サイト」

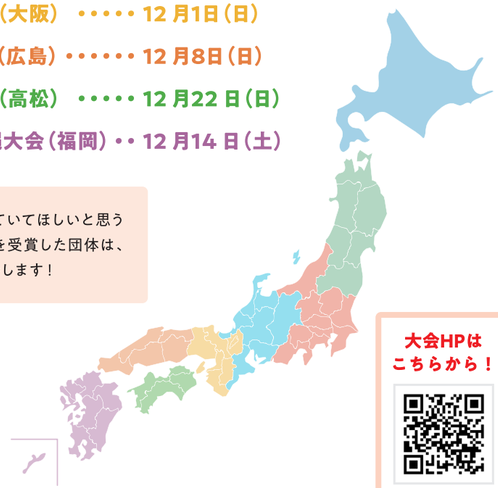
詳しくは こちらから

第10回全国ユース 環境活動発表大会開催！

高校生が取り組む環境活動やSDGs活動を全国に向け発表し、交流する「全国ユース環境活動発表大会」。
本大会はこれまで多くの高校生に参加いただき、今年で記念すべき第10回目を迎えます。
12月に全国8か所（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄）で開催される地方大会で
「地方大会最優秀賞」「高校生が選ぶ特別賞」を受賞した2校（計16団体）が、2月に国連大学で行われる全国大会へ出場します！
大会に応募したすべての高校の活動内容は、「全国ユース環境活動発表大会」ホームページに順次掲載されます。
全国の高校生の日頃の活動成果をぜひご覧ください。

地方大会 開催日程

北海道大会（札幌）・・・・12月1日（日）
東北大会（仙台）・・・・・12月8日（日）
関東大会（東京）・・・・・12月14日（土）
中部大会（名古屋）・・・・12月22日（日）
近畿大会（大阪）・・・・・12月1日（日）
中国大会（広島）・・・・・・12月8日（日）
四国大会（高松）・・・・・12月22日（日）
九州・沖縄大会（福岡）・・12月14日（土）



第10回大会を記念して、各地方大会で、10年後も発展・継続していてほしいと思う活動に贈られる「全国ユース環境活動発表大会10周年記念賞」を受賞した団体は、環境ユースインターンシップ in 北海道（2025年8月予定）へご招待します！

大会HPはこちらから！

全国大会 開催日程

2025年2月1日（土）全国ユース環境フォーラム
2日（日）発表＆表彰

【主催】全国ユース環境活動発表大会（環境省 / 独立行政法人環境再生保全機構 / 国連大学サステイナビリティ高等研究所）
【後援】読売新聞社【協力】地方環境パートナーシップオフィス（EPO）、地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）、ESD 活動センター
【協賛】キリンホールディングス株式会社、協栄産業株式会社、SG ホールディングス株式会社、株式会社タニタ、東芝プラントシステム株式会社

若手PL研修の新11期生に聞きました

We are 環境Player!

地球環境基金では、環境人材を育てる「若手プロジェクトリーダー研修」を実施しています。

活動地域 広島県
特定非営利活動法人 西中国山地自然史研究会 八木洸也さん

広島県の北広島町にある芸北（げいほく）高原の自然館という小さな博物館を拠点に、西中国山地の豊かな自然環境・里山文化の保全に取り組んでいます。

主な活動は、自然観察会などの教育活動や、モニタリング調査などの調査研究活動、芸北せどやま再生事業や芸北茅プロジェクトといった保全活動などを行政、研究者、地域住民のみなさんと連携しながら行っています。

若手PL研修では、たくさんの刺激をもらっています。なかでも価値観ワークが印象に残っています。同じ環境という分野にいても、みんな経験してきたことや考え方の軸がまったく違い、相手を知ることで、自分のことも見えたように思います。悩みや課題を共有できる同期がいることが自身の活動のモチベーションにもつながっています。

また、私たちの団体では現在、ボランティアの人手不足が大きな課題となっており、プロジェクトの全体を捉え、関係人口を増やすための新たな仕組みやプラットフォームを構築する能力が必要だと考えています。

課題解決のためにも、この研修期間中に、さまざまなステークホルダーと連携するためのコミュニケーション能力や、各々が能力を最大限発揮できるようなファシリテーション能力、プロジェクトを成功に導くための論理的思考力を身に付けたいです。

活動地域 長崎県
一般社団法人 MIT 仲本光寿さん

一般社団法人MITは、生物多様性×地域創生×共創型事業によりイノベーションを起こすことで、自然共生社会を目指す地域づくり団体です。私は主に「いきもの多様性コーディネーター」として、やんばるプロジェクトを担当しています。

新事業として、年間通じて観察できる「チョウ」を教材にして、身近な里山の生物多様性を主体的かつ自律的に学べる教育プログラムを開発・提供しています。目標は、誰もが自分の好きな身近な自然やいきものを自分の言葉で語り、やんばるの魅力を国内外に発信し活躍する。そんな地域人材を増やすことです。

団体活動の課題は、地域の「若手リーダー」の不在です。研修を通じて、まずは自分自身がプロジェクトリーダーとして必要な知識・能力・考え方を身に付け、地域の若手人材を育成できるように成長していきたいです。

研修前は不安や緊張もありましたが、同期ともすぐに打ち解け、活発な議論を交わしています。プロジェクト進行に重要なステークホルダーの洗い出しや、プロジェクトの全体像、ミッションの再認識もできました。少人数なので意見交換もしやすいため、今後もお互いの状況をシェアしたり活動事例を共有したり、切磋琢磨（せっさたくま）しながらスキルアップしていきたいと考えています。

活動地域 兵庫県／神奈川県／ほか日本各地
一般社団法人 ICERC Japan 石塚誉子さん

私たちは1991年の設立以来、イルカ・クジラを入口とした「教育（分かりやすく伝える）」「リサーチ（正しく知る）」を通じて、自然の素晴らしさ・大切さを伝える活動などを行っています。2005年の『愛・地球博』出展以降は、イルカ・クジラの生態や、彼らを取り巻く自然環境について分かりやすく伝える教育プログラムに力を注いでいます。

研修参加前は、どんな人たちがいるのだろうと少々身構えていました（苦笑）が、私たちの団体と同じく「人と自然の共生」を描いている方ばかりで安心しました。

正解ややり方を押し付ける研修ではなく、自分自身が行っているプロジェクトの核となる部分に問いかける場面が多かったので、正直、驚きました。短時間で思考することには苦労しましたが、研修後もしばらくあの思考の渦が止まらず、とても充実した時間でした。

私たちの団体は長年続いており、組織内の体力もそれなりにありました。しかし、時代が変わり、運営やサポートのメンバーも変わっていき、数年後を見据えたときに、これまでの力に頼ってばかりではいずれ活動を継続できなくなると危機感を覚えるようになりました。

これまでの経験や力も活かしながら、3年間の研修を通じて、組織を運営する能力、問題解決へと導く力を身に付けたいと思います。

サポーターインタビュー
BATON of HOPE

地球環境への願いを寄付に込め
活動を支える方々をご紹介します

東芝プラントシステム株式会社

東芝プラントシステム株式会社

本社所在地　神奈川県川崎市

未来を担う環境人材を育む、ERCA の「全国ユース環境ネットワーク促進事業」にご寄付をいただいている、東芝プラントシステム株式会社さまにお話を伺いました。

“発電で出るCO_2の分離・回収も実証中！技術で社会課題を解決します”

事業を通じた環境への取り組みについて教えてください。

東芝プラントシステムは、東芝グループの一員として、発電所や産業プラントなどの設計・施工・試運転を担っている会社です。「技術で社会課題を解決すること」を使命に、主に、エネルギーとインフラという2つの事業を通じて、環境保全にも取り組んでいます。

火力、風力、原子力、太陽光などあらゆる発電に携わっていますが、近年は、化石燃料に代わる水素やアンモニアを利用する発電にも力を入れています。発電で発生するCO_2をその場で分離・回収する最新技術の実証をはじめ、次世代エネルギー開発に貢献しています。

データ分野においては、センサーを使って、老朽化した構造物のさまざまなデータを集め、劣化や損傷を分析し、安全に修理・改善するシステムを開発中です。新しい技術で新しいものを造るだけでなく、新しい技術で保守管理して使い続けることも、環境を守る大きな力になります。

ユース事業へご寄付いただいた背景を教えてください。

以前よりさまざまな寄付活動をしてきましたが、会社として寄付を行うだけでなく、従業員一人ひとりがサポートに参画している意識を持つことが重要です。そこで、2019年より「従業員参加型寄付制度」を導入しました。希望する従業員が給与・賞与からの天引きで積立募金できるシステムで、毎年、自然環境保全、科学技術・文化振興、社会福祉施策、次世代育成支援の4分野で寄付を行っています。

これまで「次世代育成支援」として、海外の小学校建設などをサポートしてきましたが、国内に目を向けたところ、ERCAの「全国ユース環境活動発表大会」に出会いました。全国の高校生たちが日頃から熱心に環境活動やSDGs活動に取り組み、自律的に環境保全を進め発表する活発な様子を知り、寄付を決めました。自分の頭で考え、トライ&エラーを繰り返しながら頑張る若い方たちの背中を、少しでも押してあげることができればうれしいです。12月には、審査員として地方大会にも出席する予定です。皆さんの姿に刺激や元気をもらえることを、楽しみにしています。

私たちも建設・エンジニアリングの会社として、環境のため、社会課題を解決するために「何ができるか？」を常に考え、若い方たちに負けないよう、技術とひらめきを武器に、いっそう頑張りたいと思います。

環境保全も身近なことからコツコツと

総務・広報
阿部真子さん

先日は森づくり活動で山の蔦を伐採してきました

取締役 常務 総務部長
松木功治さん

今ある資源を有効活用&リサイクル

総務・広報
川口浩貴さん

地球環境基金のサポーターの皆さま

基金へのご支援をありがとうございます

皆さまのご協力が、多くの環境保全活動、持続可能な社会実現への支えになっています。
個人や企業・団体としてご協力いただいた方はもちろん、
さまざまなイベントを通じて募金活動にご参加・ご協力いただいた大勢の方々に深く御礼申し上げます。

2024年1月から9月末日現在までに、816件、総額 **21,670,466**円のご支援をいただきました

個人

青木　大地
青木　淑子
秋保　薫
浅野　恵美子
五十嵐　真由美
池亀　裕子
池田　朝雄
石川　倫
石田　洋子
伊藤　誠一
伊藤　文子
井上　栄子
井上　雅晴
植松　太郎
榎本　しづ江
海老原　啓介
遠藤　すず子
笠井　洋
加治屋　幸子
加藤　信幸
門畑　裕美子
菊地　裕子
窪原　麻希
功刀　正行
國松　一樹
腰越　泰文
小林　大
小山　明子
酒井　航介
崎山　泰樹
作山　美恵子
笹生　真悟
佐野　郁夫
篠原　泰
志村　和男
杉本　敦也
鈴木　通子
高田　信和
高橋　恵子
高橋　秀忠
高橋　宜子
田ヶ谷　保二
田口　修冬
谷山　正恵
長洲　智子
中原　宏
野口　祥子
野口　千恵子
野田　好和
橋本　雄次
土生　亜紀子
平野　武
広瀬　成行
福井　関秀
福田　満男
藤島　直司
藤田　周一
藤沼　豊美江
堀　秀行
前田　綾香
増田　茂子
松本　大
村上　松枝
村上　基
森下　一弥
矢作　浩子
山崎　節子
山田　秀明
吉田　龍貴
渡部　智寛
渡邉　憲人

企業

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社　ＭＳ＆ＡＤゆにぞんスマイルクラブ
浅香工業株式会社
イーパートナーズ株式会社
井村屋グループ株式会社
嬉野温泉病院
ＳＧホールディングス株式会社
奥野製薬工業株式会社
オリンパス株式会社
株式会社朝日フィナンシャルグループ
株式会社穴吹ハウジングサービス
株式会社ＲＥＪ
株式会社エースランドリー　総務部
株式会社小野寺商店
株式会社カイテクノロジー
株式会社コクゴ
株式会社ジャスティス
株式会社ジャパンクリエイト
株式会社ソルバック
株式会社楠フォーサイトグループ
株式会社タニタ
株式会社Dooox
株式会社HAP
株式会社FISソリューションズ
株式会社宮城運輸
株式会社ReGo
かわかみ薬局泉中央店
かわかみ薬局福祉医療の里店
かわかみ薬局行橋厚生病院前店
協栄産業株式会社
税理士法人エンパワージャパン
第一化成株式会社
高尾運輸興業株式会社
ツアン・システム有限会社
續特許事務所
Digital Entertainment Asset Pte.Ltd.
東芝プラントシステム株式会社
鳥取ファーマーズガーデン
名古屋ハイウェイ株式会社
日本紙通商株式会社
パナソニックエレクトリックワークス社
早川果樹園
はるな薬局
Beautiful Life College
ファミリーマート八王子甲州街道店
ポケットカード株式会社
三菱ＵＦＪニコス株式会社　商品開発部ポイントサービスグループ
有限会社メディカルライフ

国・地方公共団体

指宿市
大牟田市役所
海津市役所　環境課
笠間市役所　岩間支所　地域課
春日部市役所　環境政策課
川崎町役場　町民生活課
吉川市役所　市民生活部　環境課
久慈市
五泉市役所　環境保全課
桜川市役所　市民生活部　生活環境課
富士市役所

その他

池田市立北豊島小学校
一般社団法人全国燃料協会
学校法人玉川学園
環境広場さっぽろ２０２４
こども霞が関見学デー２０２４
社会福祉法人いいのやま福祉会　野の花
山形美術館募金箱
ロハスフェスタ実行委員会

企業協働プロジェクト

一般社団法人　日本釣用品工業会

※このリストは、地球環境基金への振込通知書などに記載された名称・氏名に基づき作成しておりますので、個人および企業・団体などの区別につきまして必ずしも正確ではない場合があります。また、紙面の都合により、ご寄付・ご支援くださったすべての方々のお名前を掲載できない場合もございますので、ご了承ください。

（五十音順・敬称略）

■ご寄付口座のご案内

「地球環境基金」へのご寄付は、下記口座より受け付けております。
同一金融機関でのお振り込みについては、取扱窓口でお申し出ください。

銀行名／支店名	口座番号	口座名称
ゆうちょ銀行	00190-664214	地球環境基金
三井住友銀行／東京公務部	普通預金 3013615	独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金
三菱UFJ 銀行／本店	普通預金 7637448	
みずほ銀行／本店	普通預金 2413416	
りそな銀行／赤坂支店	普通預金 1023850	

①独立行政法人環境再生保全機構は、特定公益増進法人に指定されており、税制上の優遇措置を受けることができます。
②ゆうちょ銀行以外の銀行からお振り込みいただく場合は、領収書が発行できません。領収書の発行を希望される方は、お手数ですが、地球環境基金部基金管理課（TEL:044-520-9606）へご連絡ください。

■ご寄付の方法

金融機関からのご寄付のほかに多様な寄付方法をご用意しています。

- 基金サポーターから
- クレジットカードのポイントから
- スマートフォンから
- マルチコピー機 募金受付サービスから

＼ご寄付はこちらから／

詳しくは WEB サイトをご覧ください
地球環境基金ホームページ
「ご寄付の方法」
https://www.erca.go.jp/jfge/donation/raise/

- 「本 de 寄付」から
- 「つながる募金」から
- 募金箱の設置から
- 相続財産から

◀読者アンケートにご協力いただけませんか？

PRESENT

お答えいただいた方の中から抽選で、10名様に「地球環境基金オリジナル・エコボトル」をプレゼントします。ご回答お待ちしております！

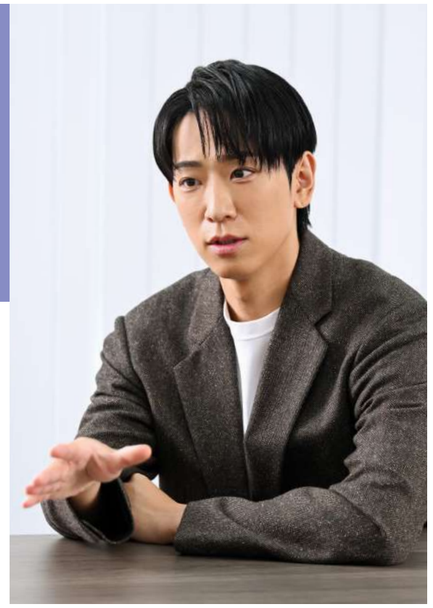
【応募締め切り】2025 年 6 月末
【応募方法】アンケートはがき、WEB サイト

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

Special Interview **KOYAMA KEIICHIRO**

NEWS のメンバーとして活躍する一方で被災地訪問などの
フィールドワークを10年以上続けている、小山慶一郎さん。
自分の目で見て、感じた体験から得た、環境への思いを語っていただきました。

環境は人。だからこそ人が守っていける



こやま　けいいちろう
小山 慶一郎

1984年、神奈川県生まれ。
NEWSのメンバーとして、2003年にシングル「NEWSニッポン」でCDデビュー。ドラマ『高杉さん家のおべんとう』主演などの俳優業のほか、コメンテーターとしても活躍中。

Q1 環境活動を行う際に大切にしていることは？

現地に足を運ぶ。見て、感じたものを自分の言葉で伝えたい

僕は今、NEWS の活動以外に、個人で防災や復興支援、日本の地域文化の再発見などの活動をしています。もっとも大切にしているのは、フィールドワークを欠かさないこと。実際に自分の目で見て、感じたことをみなさんに伝えたい。逆に、そうじゃないと自分の言葉が嘘になってしまうと思っています。その原点は東日本大震災の取材にあります。震災直後から今まで100回以上現地を訪問し、町や被災者のみなさんが復旧・復興していく様を間近で見て、多くのことを感じ、学ばせてもらいました。こうしたフィールドワークは環境問題にも言えます。先日出会った、奈良県吉野町の「桜守（さくらもり）」という人たちは、桜が咲くわずか数日のために1年かけて、土壌の改良、間伐、草刈りやごみ拾い、樹の手当てをしていました。環境には良くも悪くも人が関わっています。環境を壊すのも人ですが、守れるのも人なんです。そういう意識をみんなが持って行動したら、これからの地球環境は絶対に変われると思うし、僕自身もそう信じてこれからも取り組んでいきたいと思っています。

インタビューフルバージョンは
WEB サイトで 1月公開予定！

Q2 普段から実践している環境アクションは？

他人のごみも分別しちゃう（笑）

例えば、僕はペットボトルのラベルやキャップを外して分別して捨てますし、もしマンションのごみ置き場にラベルのついたものがあったら、他人のごみでも剝がしちゃいます(笑)。1人で大きなことを変えるって難しい。でも、一人ひとりができることを積み重ねていけば大きなアクションにつながることを、僕は信じています！

Q3 仕事現場で環境に配慮していることは？

ロケで出された料理はみんなで食べ切る

実家がラーメン店なので、今で言う「フードロス」問題は、幼い頃から母の背中を見て学んでいたと思います。「もったいない精神」は身に付いていて、例えば、ロケで1日に何軒も回る時にも、絶対に食べ残したくない。1人で食べきれない時は、スタッフみんなで分け合って食べましょう！と声を掛けます。自分が率先して声を上げることで、現場が変わっていくと思っています。

Q4 防災士の資格を持つ小山さんが考える支援とは？

一時的ではなく線の支援をしたい

今年 2 月に日本カーシェアリング協会を通じて、能登で被災した方々に軽トラックを寄付させていただきました。これまで被災地への寄付というと、簡易トイレや食料しか思い浮かばなかったんですけど、それって点の支援だったかもなと。軽トラックは、その瞬間だけじゃなく、何年も使ってもらえる線の支援になると思ったんです。防災士の資格を取ったのも、東日本大震災で被災した方たちのことをもっとわかりたいと思ったからでした。僕は手話もできるので、自分の特技を生かしながらこれからも被災地と関わっていきたいと思っています。

Q5 環境に関してこれからやってみたいことは？

環境問題へのハードルを下げるためにバズらせる！

インスタグラムで環境問題について書くと、普段より「いいね」やコメントが明らかに減るんです。そういう投稿でも、いつもと同じようなリアクションをもらえるようになれたら、みんなの環境に対するハードルも下げられたってことかな、と。そんな僕なりの環境問題へのチャレンジも続けたいです。

小山 慶一郎さんの環境活動ニュース

日本の文化や伝統、環境を発信していきたいと、小山さんがインスタグラムで始めた「ジャパンプロジェクト」。「仕事で全国各地に行っているのに、日本のことを全然知らないなと思って」。これまでに京都、大阪、奈良、北海道、三重をはじめとする地域のほか、盆栽や日本舞踊などについても発信。「そのなかで環境問題を目の当たりにすることもあります。自分の目で見た現状を伝えることも、このプロジェクトの目的のひとつ。47都道府県すべてに行けたらいいなと思っています」。